

蛍の光

原曲 スコットランド民謡  
作詞 稲垣千穎（いながきちかい）

一

蛍の光 窓の雪

夏は蛍をつかまえて集めた光で、  
冬は月光が雪に反射してできた雪明りの光で

書読む月日 重ねつつ

書物を読む月日をずっと重ねて  
勉強を続けてきた。

何時しか年も すぎの戸を

いつの間にか、年月が過ぎて、  
今朝は、杉の戸（過ぎ去った年月の戸）を開けて、

開けてぞ今朝は 別れ行く

友だちと離ればなれに別れていくときとなってしまった。

二

止まるも行くも 限りとて

生まれ育った土地に残る者も、  
この土地から遠く離れていく者も、  
今日限りとなったしまった。

互に思う 千万の

おたがいに過去のなつかしい思い出や、  
卒業したら、これをするぞ・これをやるぞという夢は  
数限りなくある。

心の端を 一言に

卒業に当たって思い浮かぶ心の端々（思いの一つ一つ）を  
ひと言でまとめて言うと、  
ただ ただ 将来「お幸せに、幸多かれ」と祈って、  
歌うのみである。

幸くと許り 歌うなり

（語句の説明）

すぎの戸（「杉の戸」を開けると「過ぎ去った月日の戸」を開ける、二つの掛け言葉）